

コロナワクチンはいつ打てるのか



衆議院議員・和歌山県連代表

きし もと しゅう へい
岸本 周平

プロフィール

- ・国民民主党 幹事長代理、選挙対策委員長
- ・世界の子どもたちのためにボリオ根絶を目指す議員連盟 幹事長
- ・NPO議員連盟事務局長
- ・プリンストン大学客員講師、中央大学大学院客員教授
- ・トヨタ自動車(株)涉外部長
- ・内閣府政策参与、財務省・経済産業省課長
- ・経済産業省大臣政務官、内閣府大臣政務官

短期集中と銘打った政府の4月25日からの緊急事態宣言は効果がなく、結局、対象地域を増やして5月31日まで延長されました。もはや、政策の態をなしていません。通常の生活を取り戻すための決め手となるワクチン接種も遅れています。

連休明けの段階で、和歌山県の医療従事者の2回目ワクチン接種率は約3割。65歳以上の高齢者について一回目打った方が4%です。ワクチン供給が増える今後の進展に期待したいと思います。

和歌山県だけ接種が遅れているわけではありません。日本全体が先進国の中で大きく取り残されています。5月上旬のOECD37か国の1回目接種状況。1位のイスラエルは63%、続いて英国52%、米国44%と続き、日本は最下位の2%です。もはや先進国と言えない状況です。

確かに、自国でワクチン開発ができないという産業競争力の低下には問題があります。しかし、評判の悪いトランプ前大統領ですら、ワクチン開発に1兆円を投じています。その時、日本はGo Toキャンペーンに2兆7千億円の予算を組みました。つまり、戦略的な発想ができなくなっているのです。自国でワクチンが開発できないなら、イスラエルのように輸入ワクチンで勝負することを早く決めて、ライセンス生産を始めることもできたはずです。

しかし、大事なことは、これから輸入されるワクチンの接種を急ぐことです。米国では、薬局で薬剤師さんが注射しています。英国では医療資格がなくても一定の研修を受けた「注射ボランティア」が活躍。日本でも大胆な規制緩和とボランティアの協力が必要です。

和歌山市内では集団接種が遅れ、これまで個別接種の病院やクリニックの医師の皆さん的心意気に頼ってきました。しかし、アナフィラキシーへの対応も含め、安全に効率よく接種を進めるためには、一日も早く集団接種の会場と人員配置の準備をする必要があります。

岸本周平 活動のひとコマ



幹事長代理や選挙対策委員長として、NHKの「日曜討論」に出演。コロナ対策の事業者支援など提案。



衆議院本会議や予算委員会での代表質問。これまで、政策通として国会で正々堂々の議論をしてきました。



週末の街頭演説。コロナ対策のための持続化給付金や家賃支援給付金の再支給を訴えています。

WEBから岸本周平の活動が見られます！ ※スマートフォンからは右記QRコードを読み取り下さい。

<https://shuheikishimoto.jp>

岸本周平

検索



@shuheikishimoto



岸本周平



コロナ禍から一日も早く日常に戻れるように!



和歌山県議会議員(5期)

うら ぐち こう てん
浦口 高典

1955(昭和30)年生まれ、和歌山市今福出身
早稲田大学教育学部 卒業
[党役職] 和歌山県連幹事長
[所属委員会] 農林水産委員会
半島振興・地方創生対策特別委員会

未だ続くコロナ禍の中、ワクチン接種が最も有効な方法だと考えられますが、残念ながら我が国は他国に比べて出遅れている状況であり、65歳以上の高齢者への接種が4月に入ってようやく始まり、和歌山県においても4月12日から接種開始となったところです。

首相官邸で公表されているワクチンの接種実績を見ると、和歌山県の接種実績は現時点では“上位”に位置し、特に県内ではじめて接種が開始された和歌山市においては「約280の医療機関の積極的な協力」により、ワクチンの供給があれば接種できる体制が整っているとのことです。

政府によると65歳以上の高齢者向けのワクチン接種は7月末までに完了することですが、現時点ではワクチンの供給は十分ではなく、ワクチンの接種を希望する方のうち僅かな方しか接種できていない状況にあるのは事実です。

我々としては、早急に若者も含めた希望者全員がワクチン接種を受け、一日も早く新型コロナが発生する以前の日常に戻れるよう、これからも県を通じて市町村と連携を取りながら、国に強力に働きかけて参ります。

第4波に打ち勝つには

和歌山市でも医療従事者等から順に新型コロナワクチン接種が始まりました。新型コロナウイルス感染症の蔓延が始まっていますから、既に1年以上コロナ禍が続いています。この間、都市部では複数回に亘る緊急事態宣言が繰り返され、第1波の頃に比べて緊張感も薄れています。私はコロナ収束に必要なのは早期のワクチン接種も大切ですが、それ以上に必要なのが国民一人ひとりの「心」だと思います。例えば、現在は第4波到来と言われていますが、これを第4波ではなく変異株での第1波との認識で「心」新たに、改めて緊張感を持つことが大切であるという様に。

現場主義と対話をモットーにしている私の市議活動において、4月25日に発令された大阪府での3回目の緊急事態宣言により、「人の流れが和歌山市にやってくるのではないか」との心配の声が多数寄せられていました。その後、和歌山市の飲食店の時短要請、それに伴う協力金の支給が決定されました。始まりは小さな市民のお声でも、その声が大きな市へ、そして更に大きな県へと届くことに繋がりました。引き続き、緊張感を持って「心」新たに、新型コロナウイルス感染症対策に取り組んで参ります。

和歌山市議会議員(4期)

なが の ひろ ひさ
永野 裕久

1973(昭和48)年生まれ、和歌山市出身
和歌山県立和歌山東高等学校 卒業
[党役職] 和歌山県連副幹事長
[所属委員会] 経済文教委員会 委員
地震対策特別委員会 委員



コロナ禍の子育て 市民への支援に全力を

コロナウイルスの影響が出始めてからはや1年と4ヶ月が経ち、今年2021年にはコロナ第3波・第4波と全国的に見ても昨年の比にならないくらい感染者が拡大しました。

この間、自粛や時短要請の影響を受ける業種の事業者さんや被雇用者の方からお話を伺い、市の担当課を交えて意見交換の場を設け今後の取り組みに向けて話し合いを続けています。

また、一般質問の場ではコロナ過における自粛や所得低下による、子どもの貧困・児童虐待リスクが高まっていることから見守り強化事業の実施提案を行い今年度予算化されました。

和歌山市でも4月14日には31人の陽性者が発生し、以降も陽性者が20人を超える日が多くあり病床数もギリギリという状況が続きました。変異種の報告も増える中、コロナ第5波が来ることも十分に考えられます。まずは感染者がきちんとした治療を受けられるよう病床数の確保を最優先に考え、また事業者さん・市民の皆さんからのご意見を取り入れ、感染拡大期・回復期の状況に合った施策を都度考え、少しでも早く通常の生活に戻れるよう提案を行っていきたいと思います。

和歌山市議会議員(1期)
やま なか とし お
山中 敏生

1984(昭和59)年生まれ、和歌山市砂山出身
近畿大学経済学部経済学科 卒業
[党役職] 和歌山県連幹事
[所属委員会] 総務委員会

変異種の報告も増える中、コロナ第5波が来ることも十分に考えられます。まずは感染者がきちんとした治療を受けられるよう病床数の確保を最優先に考え、また事業者さん・市民の皆さんからのご意見を取り入れ、感染拡大期・回復期の状況に合った施策を都度考え、少しでも早く通常の生活に戻れるよう提案を行っていきたいと思います。

政策がある 国民民主党

国民民主党は結党以来、「政策提案型の改革中道政党」として、国民生活向上的ための具体的な提案で、政府と党を動かしてきました。



提案中の 政 策

1

追加現金給付

家計の支援、感染拡大防止の協力金として、現役世代に10万円の一括給付(低所得者には20万円)

2

事業規模に応じた支援

「家賃+従業員数×10万円」を時短期間に応じて融資し、時短営業に協力すれば実質支給(返済不要)

3

消費税減税

消費税率を1年間限定で10%→5%に引き下げ